

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

| | |
|---------|------------------------|
| 上位の施策名称 | 施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進 |
|---------|------------------------|

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

自然環境課長 齋藤 晃大

電話番号

0852-22-5346

| | | |
|---------|---|-----------------|
| 事務事業の名称 | 自然公園管理事業 | |
| 目的 | (1) 対象 | 自然公園利用者 |
| | (2) 意図 | 安全で快適な利用の確保を図る。 |
| 事業概要 | 県内の自然公園（国立公園、国定公園、県立自然公園）では、各公園計画に基づき、公園を利用するための施設（遊歩道、駐車場、公衆トイレなど）が整備されている。このうち、県が整備他施設について、安全快適に供用するため、地元市町村に日常管理を委託し、破損及び老朽化施設を維持修繕する。また、自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。 | |

2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 | | 年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 単位 |
|----------|-------------------|-------|----------|----------|----------|----------|----------|----|
| 1 | 指標名 自然公園の利用者数 | 目標値 | | 9,330.0 | 9,330.0 | 9,330.0 | 9,330.0 | 千人 |
| | | 取組目標値 | | 12,370.0 | 12,370.0 | 12,370.0 | 12,370.0 | |
| | 式・定義 自然公園の利用者数 | 実績値 | 12,370.0 | | | | | |
| | | 達成率 | - | | | | | % |
| 2 | 指標名 | 目標値 | | | | | | |
| | | 取組目標値 | | | | | | |
| | 式・定義 | 実績値 | | | | | | |
| | | 達成率 | - | - | - | - | - | % |

3. 事業費

| | 前年度実績 | 今年度計画 |
|-------------|--------|--------|
| 事業費(b) (千円) | 41,077 | 72,209 |
| うち一般財源(千円) | 16,234 | 16,519 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

○自然公園、自然歩道の利用者数は、出雲大社の遷宮効果が続いたこともあり、利用者数が大きく目標値を上回った。平成28年度以降、出雲大社の利用者については減少も見込まれるが、国立公園満喫プロジェクトや広域観光周遊ルートの認定に伴う利用者の増加要素もあることから、平成27年度実績を上限として目標を再設定する。
○自然公園内における県所管施設の維持修繕を行う一方、危険箇所については、通行止めなどの対応により、利用者の安全確保に努めた。また、パンフレットの配布、県ホームページや県広報の活用により積極的にPR活動を行った。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

参考指標としている利用者数も目標を達成した。危険な箇所は、通行止めにより、自然公園の安全性の確保は図られた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
利用者や自然保護レンジャーから、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石など苦情・連絡が多い。
- ②困っている状況が発生している「原因」
過去に整備した施設の老朽化が進んでいる。自然災害による倒木・落石などが多数発生している。
- ③原因を解消するための「課題」
○古い施設が多い
○施設修繕や倒木・落石などの処理に対する予算、体制が十分でないことから、復旧できていない箇所があり、利用者の要望に応えることが出来ていない。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○老朽化の状況や利用頻度等から判断し、緊急度の高い箇所から修繕を進める。
○老朽化の状況や利用頻度等から判断し、不要な施設は撤去又は地元市町村へ譲渡する。
○利用者や自然保護レンジャーによる整備を支援する。
○通行止め等の早期復旧や、倒木などが発生しないよう予防処理（対策）を行い、安心・安全な利用に向けて整備する必要がある。
○国立公園満喫プロジェクトに「大山隠岐国立公園」が選定されたことを契機に、県内の自然公園の受け入れ整備を行うとともに活用促進を図る。

9. 追加評価（任意記載）

大山隠岐国立公園は、平成28年7月25日に環境省の国立公園満喫プロジェクトとして先導的モデルとなる8つの国立公園の1つに選定された。大山隠岐国立公園では、国・県・関係自治体、関係団体が連携し推進体制「大山隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会」を組織し、2020年までに施設等のインバウンド対策や、体験プログラムの開発、ツアー造成、ガイド養成などに集中的に取り組む外国人利用者の増加を図ることとしている。今後、県内の隠岐地域、三瓶山地域、島根半島西部・東部の4ヶ所の国立公園においても、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を図るため、積極的に活用促進に努めていく。